

扱	テレビ・ラジオ	平成16年3月8日午後5時以降
い	新聞	平成16年3月9日付け朝刊以降



— お知らせ —

平成16年3月8日
JH日本道路公団
横浜工事事務所

「釜利谷地区における自然環境との調和に向けて」について

横浜環状南線（以下、「横環南」）は、横浜市中心部に集中する交通を分散し、市内の慢性的な交通渋滞を緩和すること等を目的に計画されている横浜環状道路の南側の一部（横浜市金沢区釜利谷町から同市戸塚区汲沢町までの延長約9km）をなす自動車専用道路であり、平成7年に都市計画決定されました。

釜利谷地区は横浜市内でも比較的自然環境がまとまりをもっている地域であり、ヒメウキガヤ（神奈川県絶滅危惧種）やホトケドジョウ（環境省レッドデータブックの絶滅危惧B類）等の生育・生息が確認されています。

このようなことからJH日本道路公団は、自然環境の保全・復元・創出を基本方針として、横環南事業を進めており、釜利谷地区の自然環境との調和に向けて調査・検討を進めてきたところです。

平成8年から、「横環南自然環境検討委員会」（委員長：亀山章 東京農工大学農学部教授）を設置して専門家等による調査・検討、ヒメウキガヤの一部移植実験等の調査・検討に取り組んでいます。また、平成12年には、調査・検討の内容を事業者として適宜具体化していくための「釜利谷地区自然環境保全・管理基本計画」を作成し、横環南の工事等に反映させていくこととしています。

平成13年1月に行った記者発表では、ヒメウキガヤの一部移植実験におけるこれまでの調査によって、「ひょうたん池」とその代替池として整備した「新ひょうたん池」について、水質・水量、水生動物の生息状況等からほぼ同質な環境が形成されていること、ヒメウキガヤの生育についても良好であることを報告しています。

その後、「新ひょうたん池」において調査を継続しており、現在、ヒメウキガヤが良好な生育であることを確認しております。また、水生動物の生息状況等からもほぼ同質な環境が維持されていることを確認しております。

釜利谷JCTで進めてきた工事用道路工事においては、釜利谷地区自然環境保全・管理基本計画に基づいた自然環境対策を実施しております。

今後の取り組みとしては、釜利谷地区自然環境保全・管理基本計画に基づいた自然環境に配慮した対策を実施していくとともに、道路建設による自然の改変を出来るだけ少なくするための工夫を行い、道路と釜利谷地区の自然環境との調和を図っていく予定です。

発表記者クラブ
神奈川県政記者クラブ
横浜市政記者クラブ

お問い合わせ先
日本道路公団 横浜工事事務所
工務課長 村田 啓
電話 045-352-3771（代表）

新ひょうたん池「ヒメウキガヤ」の生育状況

新ひょうたん池のヒメウキガヤは平成 11 年 3 月に一部移植実験を行っています。
平成 16 年 2 月時点では、下記の写真のように順調な生育をしています。

「ヒメウキガヤ群落の状況」(平成 16 年 2 月撮影)



ヒメウキガヤ（イネ科ドジョウツナギ属）

北海道と本州の河川の上～中流域，水路，水田などの水辺や水中に生育する多年草。
稈は細長く水中を這い，葉は水面に浮遊するか立ち上がり，ときに沈水状態でも生育。花期は5月から7月。（参考：1994「日本水草図鑑」，文一総合出版）

ヒメウキガヤは，神奈川県レッドデータ生物調査報告書（神奈川県立生命の星・地球博物館1995）において絶滅危惧種にランク付けされています。

釜利谷地区の「ホトケドジョウ」の生息状況

釜利谷地区のホトケドジョウにつきましては、平成 11 年 8 月、12 月、平成 12 年 5 月、7 月、10 月、平成 13 年 8 月、11 月、平成 15 年 5 月、8 月、10 月の調査において生息を確認しております。

「ホトケドジョウ」



(出典：1996 「フィールド総合図鑑 川の生物」 (株山海堂))

備考：調査員より調査現場に行ったとき、現地でホトケドジョウを捕獲している人を確認したとの報告を受けております。よって、保護の観点から生息場所の限定を避けるため「釜利谷地区のホトケドジョウ」との表現にしています。

ホトケドジョウ(ドジョウ科ホトケドジョウ属)

青森県と中国地方西部を除く本州, および四国東部に分布し、水田・湖沼などにすむ。産卵期は3月下旬から6月上旬である。1年で4～5cm(オス)ないし5～6cm(メス)となる。

(参照：1980「原色日本淡水魚図鑑」(株保育社))

ホトケドジョウは、環境省「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック 汽水・淡水魚類(2003)」において「絶滅危惧 B 類」にランク付けされています。

工事への取り組みの状況

これまでの工事用道路の工事では、横環南自然環境検討委員会の検討結果を踏まえて、以下の自然環境に配慮した対策を実施しています。

のり面には郷土種を用いた緑化を行っています。
計画地内の樹木を移植しています。
採取した種子を苗木に育てて植栽を行っています。

のり面には郷土種を用いた緑化を行っています。



郷土種（ヤマハギ、イタドリ、ヨモギ、ススキ）によるのり面の緑化

計画地内の樹木を移植しています。



エノキ,スダジイ,コナラ等の樹木を移植

採取した種子を苗木に育てて植栽を行っています。

・どんぐり採取

平成8年、12年に続き、平成15年11月19日に釜利谷地区において、生育するどんぐり等の種子（アラカシ、シラカシ、コナラ等）を採取しました。



JH職員による種子採取



アラカシ



シラカシ



コナラ

・種子から苗木を育てています。

拾ったどんぐり等の種子は、JH緑化技術センターで育てています。一般的に種子は2～3年後に苗木になります。（写真はシラカシ）



・育てた苗木を植栽しています。

今後の工事においても育てた苗木を植栽していくとともに、伐採木のチップ化などを行い、有効利用を図ってまいります。



今後の取り組み

今後とも釜利谷地区自然環境保全・管理基本計画に基づいた自然環境に配慮した対策を実施していくとともに、横環南建設による改変部分の面積を可能な限り少なくし、自然環境の保全を図ってまいります。

至並木



「当初計画」鳥瞰図



至並木



「切土改変縮小計画」鳥瞰図